支え愛　『組織を俯瞰する』

愛泉会監事
羽陽の里施設長　武田庄司

福祉の職場では、書類や文書、他施設の広報紙など回覧物が多い。その中で、人は自分の興味・関心のある事柄については記憶にも残るが、関心のない事は読まずに飛ばしたり見ても覚えがないことがよくあります。

また、現場の一職員として利用者と関わる時も、リーダーや管理者として関わる時も、その時々に見えるもの、見ているものは自ずと異なるのも事実です。利用者の想いを汲みその人にとっての生活や人生全体を関連付けて見渡すことを大切にしたいものです。

では、施設の役割や機能はどうでしょうか。井上理事長は、常に「ソーシャルワークの実践」を中軸に掲げ事業を展開してきました。入所施設「向陽園」が開設され35年、法人パンフレットには沿革があゆみとして載っています。〇年にグループホーム開設、〇年相談支援事業所開設などなど。

開所から数年たった当時、向陽園は何を考え、どこに向かおうとしていたのでしょうか。それは、施設利用者に対してのサービスの向上や権利擁護、QOL向上はもちろんですが、利用者以外の在宅障がい者のニーズの事でした。地域ではどんな福祉資源が求められているのか、施設はどう応えられるか等を探し始めた時期です。短期入所、訪問や通所機能等について検討するなど、これが今のソーシャルワーク実践の源であると思います。施設機能の充実と地域ケア推進、資源開発等を継続して実践してきた事が愛泉会の強みです。

沿革だけを見ると事業所開設の列挙にしか見えなくとも、35年前一つの入所施設から始まり、山形市近隣地域で、利用者の想いを大切に、地域共生社会を目指した実践の積み重ねのあゆみです。

パンフレットの地図は、空飛ぶ鳥からは、誇らしく、力強く、頼もしい鳥瞰図として見えているに違いありません。

「地域移行と意思決定支援」

社会福祉法人愛泉会
創造企画部長
庄司　泰夫

昨年度末から中山町に２カ所目のグループホームの新設を進めてきましたが、外壁工事も終了し、完成しました。当法人としては、12カ所目のホームとなりますが、重い障がいのある方々にも暮らしていただけるよう、防音も含め設備面で様々に配慮した建物となっています。

入居する方々が決まっていて、建てた建物ではありません。入居者の決定は、これから時間をかけてということになるでしょうか。入居を予定している方々の中には、意志表出が難しい方々も多くいらっしゃいます。愛泉会では、これまで80名を超える方々に施設から地域生活に移行していただきましたが、長年施設で生活してきた方々にとって、地域生活の実体験はとても大切です。1～3か月体験利用を行い、決定した方もいらっしゃいました。

そして意思確認の決め手は、表情やしぐさ、行動等です。施設で共に生活していると、何となくその人の「好悪」「快不快」が表情やしぐさ、行動等から解るものです。その人を良く知る職員に体験の期間関わってもらいながら、非言語コミュニケーション手段を基に意思確認を行っています。

昨年度から当法人では、これまで移行した方々、ご家族に入っていただきながら「地域移行と意思決定支援」の調査を行っています。その中で、ご家族から「ホームで生活する今が、人生の中で一番幸せだ」とのご意見があったとの報告がありました。

「今が一番幸せ」なサービスを新設するホームでも実現できるよう努めていきたいと思います。

特集　僕の夢、私の夢 ～夢・実現のために～ 2021年度

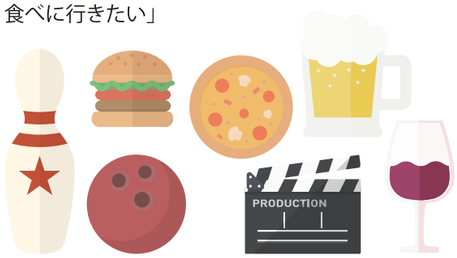
《夢・実現のために》と、愛泉会ではテーマを掲げています。障がいがあるから出来ないとあきらめていることはないでしょうか。すぐに実現できなくても、少しずつお金をためたり、練習したり、経験を重ねたり。多くの取り組みがされていると思います。成功しないと表に出ないことが多い中、そのプロセスを大切に、一緒に取り組んでいる内容をご紹介します。

エコファームもとさわ

「コロナが明けたらやりたい事」

コロナ渦での自粛生活も2年が過ぎました。支援者である私達も感染対策の為、行動に気を使わなければならない生活を送っておりますが、エコファームもとさわを利用されている従業者の方々も同様に、やりたい事があっても我慢を強いられる日々を送っております。そこでこの度は、従業者の皆さんから「コロナが明けたらやりたい事」というテーマでお話を伺いました。

Oさん：「やっぱり、温泉さ行ってみたいな。あと焼肉食べに行きたい」



Nさん：「映画館に行きたいです。あとは旅行とかも」
Kさん：「ボーリングに行きたいな。あと外食とか」
Iさん：「福島に旅行に行って、観光地を巡りながら、たらふく食べたいです」
Sさん：「カラオケに行きたいですね。酒を呑みながら歌いたいです。あと居酒屋に行きたいです」

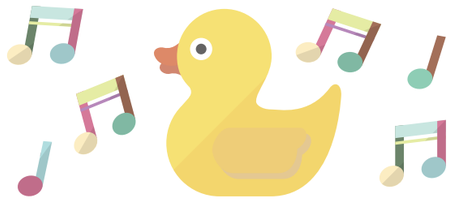
エコファームもとさわでは、「働くこと」はもちろん大切ですが、協力して仕事をしていくためにはチームワークも必要だと考え、この2年間はなかなか実施できていませんが、懇親会や旅行等を計画し、従業者と支援スタッフが懇親を深める機会も大切にしております。今回、従業者の方々からお話を伺い、何気ない日常生活の延長線上に皆さんの幸せがあるという事を改めて感じました。今後も、当事業所での取り組みを通して、従業者の方々の生活が充実し、より豊かな人生を送れるよう、支援していきたいと思います。［エコファームもとさわ　支援員リーダー　松田 拓也］

地域生活支援センター心音

相談支援のキーワードは「夢と希望」

相談支援って何？と聞かれたとき、いつも答えているのは「ご本人の夢と希望を叶えるお手伝い」と言っています。ご本人の夢や希望を実現するために一緒に考えたり、時には失敗をしながら、試行錯誤していくのが相談支援の役目かと思っています。

一つの事例を紹介してみたいと思います。Sさん（男性）は父と一緒に生活をしていましたが、父が高齢になって在宅生活が難しくなったため、高齢施設へ入所することになりました。一人で生活するのは不安。でも、今まで生活していた家で生活がしたい。というのがＳさんの希望でした。ご本人と一緒に話しあい、生活面のお手伝いはヘルパーさんに手伝ってもらうことにしました。お金の管理はある程度できるので、ご自身で行うことにしました。しかしある日、悪徳商法に引っかかってしまうという事案が発生しました。それを機に成年後見制度を利用し、ご本人には保佐人がつきました。その保佐人の方はとても良い方で今では親の様に慕っており、いろいろなことを相談したりしています。

この事例の様に、苦手な部分はあってもサポートがあれば希望する生活がおくれます。仕事や日中活動の面での夢や希望も同様かと思います。夢を諦めていませんか？一緒に考えていきましょう！

［地域生活支援センター心音　所長　會田 雄］